

おいしー(OEC) ニュースレター

No.6 2005.07

NPO法人 おきなわ環境クラブ

6月は環境月間でしたが、皆さん地球に優しいことしましたか？ 1人、1人の小さなアクションが世界に広がっていくことを忘れちゃいけないーと改めて感じる今日この頃。長かった梅雨もやっと明けて、沖縄の長い夏がやって来ました。クーラーの設定温度は28で過ごしましょう あなたの思いやりが地球温暖化を食い止めます。



修了！ JICA 熱帯・亜熱帯地域エコツーリズム人材育成研修

4月11日から6月17日まで昨年に続き二回目のJICA 集団コース『熱帯・亜熱帯地域エコツーリズム人材育成研修』が実施された。参加したのはベリーズ、ドミニカ共和国、ホンジュラス、インドネシア、マレーシア、モルジブ、ミクロネシア、サモア、ソロモン諸島、スリランカの政府やNGOに勤める10名。

研修員は各国の実情を踏まえ、人材育成を含む実際のエコツーリズムのプログラム作りができるようになることを目標にした研修コースを履修。

沖縄の観光開発や環境保全について、行政や民間の取り組み等の講義、県内外のエコツーリズム団体によるプログラム運営方法を学び、実際に体験した。また「愛・地球博」での展示手法や世界各地の取り組みなどの視察を通してエコツーリズムに関する知識・技術を習得した。

約2ヶ月半の研修を通して研修生たちは、エコツーリズム・アクションプランを作成、発表し自国での実践に意欲を見せた。



開始！ 宮古エコツアーガイド養成研修

宮古島地下水水質保全対策協議会が当クラブ(OEC)へ委託して『宮古エコツアーガイド養成研修』が6月18日開講した。

同研修は、昨年の経済産業省助成金“市民活動活性化モデル事業”の計画策定事業『宮古島におけるエコツアーとエコ体験市場の創生』の実践プログラムの1つ。

これから9月までの3ヶ月間、講義や実習を含めた約200時間で、宮古島を中心に歴史・自然・水環境などを案内するエコツアーガイドとして、また、学校や地域における講師として必要な、基本的な知見と技術を習得する。

選ばれた地元のNPO関係者やバスガイドなど20名の受講生は「宮古の良さを伝えたい。」とヤル気充分！

宮古島のエコツーリズムの担い手として期待は大きい。



平成 17 年 4 月～6 月の活動歴

活動名	内容	年月日	場所	人数	備考
コンゴ民主共和国 平和定着のための国際協力セミナー	アフリカのコンゴから 12 名の研修生が戦後沖縄の復興プロセスや戦争体験をどのように記録しているかを視察	05-04-02 ～ 05-04-03	沖縄国際センター (OIC)	12 名	JICA 沖縄委託
なはの街ゆいレールエコマップ作成 取材対応	マップ作成の経緯、目的、今後の展開など	05-04 ～ 05-05	FM なは 琉球ラジオ放送 琉球新報		自主事業・環境教育
平成 17 年度 (第 2 回) JICA 集団コース「熱帯・亜熱帯地域 エコツーリズム人材育成研修」	サンゴ礁やマングローブなどの自然資源と、歴史・文化的資源を活用したエコツーリズムの企画・実践に必要な知識・技術を習得し、熱帯や亜熱帯の島嶼国において環境に対して負荷の小さいエコツアーを企画・実践出来る人材を育成	05-04-11 ～ 05-06-17	沖縄国際センター (OIC)	10 名	JICA 沖縄委託
「郷土の自然」復刻版出版	県立博物館発刊で絶版になっていた、郷土沖縄の自然の手引き書として野外観察にも役立つ書物の復刻	05-04			JATA 環境基金助成
JICA 福利厚生事業	沖縄国際センターに滞在する研修員の社会見学やエコツアーなど	05-05-22 05-06-05 05-06-26	首里城 美ら海水族館 座喜味城・残波岬	118 名	JICA 沖縄委託
琉球列島における水辺植生とその 希少種の保護・回復事業	各島々において採種・播種・育苗・保育・移植など一連の作業が継続出来る拠点と体制づくりを完成すると共に、今後の活動の参考書として実践マニュアルを作成する	2005 年度	与那国島 西表島 石垣島他		地球環境基金助成
沖縄の地形とサンゴ礁について	総合学習の時間に沖縄の地形や美しい珊瑚礁について講義	05-05-10	沖縄工業高校 (定時制)	120 名	自主事業・環境教育
沖縄の自然環境と課題	三重県伊賀市立霊峰中学校の修学旅行生に沖縄県の概要や自然環境、沖縄の動植物とその課題について講義し、野鳥・マングローブの観察をした	05-05-25	漫湖水鳥・湿地 センター	14 名	自主事業・環境教育
那覇市環境パネル展	ゆいレールを使ったエコツアーの紹介となはの街ゆいレールエコマップの展示	05-06-01 ～ 05-06-09	久茂地公民館		自主事業・環境教育
アース・ウォーカー沖縄プロジェクト への協力	20 世紀に戦争で亡くなったすべての人のために世界中を歩いて植樹活動をしているポール・コールマン氏と共にサガリバナを 4 本植樹	05-06-12	漫湖南岸 ガサミ広場	25 名	自主事業・環境教育
漫湖水鳥・湿地センター環境パネル展	ゆいレールを使ったエコツアーの紹介となはの街ゆいレールエコマップの展示	05-06-10 ～ 05-06-30	漫湖水鳥・湿地 センター		自主事業・環境教育
宮古エコツアーガイド養成研修	宮古島でエコツーリズムと環境教育を担う人材としてのガイド・講師を育成する	05-06-18 ～ 05-09-17	OEC 宮古支局	20 名	宮古地下水協委託

今後の予定

おきなわバリエーションフェスティバル 2005

7/11(月)～7/15(金)まで県庁中庭で夕刻よりサガリバナのライトアップを行います。

My キーフジ作戦 2005

8/6(土)漫湖南岸にてサガリバナを 30 本植樹します。

マヤブシキあれこれ(2)

ところで、マヤブシキとは、いったいどんな意味なのだろう。『マヤ』は、沖縄の方言で『ネコ』を表すのだそうだ。これは、昔から一般的に使われているのである。ちなみに、西表島では、イリオモテヤマネコのことを『ヤママヤ』と呼んでいたそうである。

さて、問題は、『ブシキ』である。いろいろ調べてみたが、八重山に住んでいる方からのお話にも諸説あるようだ。ちょうどよいので、その諸説にしたがいながら、もう少しマヤブシキを紹介してみよう。



I ヒルギ説(ヒルギ=マングローブ)

西表島では、マングローブ林のことを『ブシキャン』と呼んでいたようである。ネコのいるマングローブの木ということになるだろうか。マヤブシキのまわりでエサを探す姿や、木の上でお昼寝をしている姿が想像できる。マングローブの中でも、一番海側に生える種類で、塩水に耐える力が強いようである。

I シッポ説

マングローブは特殊な根をもつことでも知られている。マヤブシキは、地中から鉛筆の芯を立てたような根を持っている。これは、不安定な湿地帯に生育する木を地中に根を張り巡らせて支える役目と、酸素が少ない地中から根を出すことで、空気中から酸素を取り込む役目がある。約15~20cmも飛び出した無数の根は、呼吸根(直立根)と呼ばれ、まるで、ネコのシッポのようである、との説である。

I ヘソ説

マヤブシキは、ハマザク科の植物である。初夏に、薄いピンク色を含んだ真っ白なオシベをびんどのばした、花火のような花をつける。約10ヶ月かけて、直径5cm位の小さいザク口状の果実をつける。果実の中には、約150個の種子が詰まっており、この果実が熟して、水面に落ちると中から種子が海流散布されるという仕組みである。なぜ、ヘソなのかというと、このザク口状の果実を割ってみると、種子が放射状に詰まっている様子が、オヘソみたいにみえるからだそうだ。

OECでは、2004年の年未年始、この種子の採取や、他の島固有のマングローブ保護活動をするために、与那国島、石垣島、小浜島、そして西表島へ渡った。

(続く)

余談：我が家の一員に、クルマヤ~がいる。昔は、ミキマヤ~もいた。



OEC事務局研究員 吉田透



ポール・コールマン氏と植樹セレモニー

「20世紀に戦争で犠牲になった全ての人々のために、一人に一本ずつの木を」のミッションで世界中を歩きながら植樹活動を行っている“アース・ウォーカー”ポール・コールマン氏が6月3日来沖した。

今回、当クラブもコールマン氏の植樹活動に賛同し、6月12日漫湖南岸のガサミニュメント近辺でサガリバナの植樹を行った。

当日は激しい雨のなか、ポール・コールマン氏と同氏の活動に賛同するボランティア・メンバーをはじめ、日本グラフィックデザイナー協会“JAGDA”のメンバーなど二十数名が集まり、4本のサガリバナにスコップで代わる代わる土をかけて植樹を行った。

近年、沖縄戦の記憶が薄れがちな我々にとって、“木を植える”という行動を通して、戦争で亡くなった全ての人達の鎮魂と、現在の平和の有難さを感じる事が出来る良い機会となった。

コールマン氏は8月まで沖縄各地を歩きながら植樹を続ける予定。コールマン氏の活動にエールを送りたい。

彼の活動は <http://www.earthwalker.com/japan/okinawa/> で見ることができる。



沖縄エコツアーガイド Voice



英語が大好き。好きな英語を仕事に活かせる事、これまた無上の喜び、と素直に言えるようになったのは、つい最近。こうした感慨に至るまでは正直非常にキツかった。ガイド予定日一週間ほど前から夜もあまり眠れず、精神的プレッシャーは相当なものだった。資料下調べ、英文シナリオ作成、現地リサーチ... とやるべき事は山積み。

仕事とは不思議なものだ。赤っ恥かいて、冷汗かいて、逃げ出したいとまで思っていたが、アララ不思議、何と次第に楽しくなってくるではありませんか。特に、世界何十ヶ国から、肌の色、服装、言語とそれぞれ異なる研修生たちが多数参加する JICA のガイド業務はやりがいのある仕事と言えよう。各国の研修生たちと会話を交わす事で見えてきたものがある。それは、ガイドは様々な国の相互交流を取り持つ触媒的役割を担っているのではないかという思いである。それはかつての琉球王国時代の万国津梁の思想にも通ずるものがあると確信する。

(沖縄エコツアーガイド・与儀淳子)

NPO 法人 おきなわ環境クラブ (OEC)

〒902-0075 那覇市国場 370 番地 107 号室

TEL: 098-833-9493 FAX: 098-833-9473

E-mail: oec@mc3.seikyuu.ne.jp

URL: <http://www.npo-oec.com>

OEC 宮古支局

〒906-0301 下地町字川満 1026

TEL・FAX: 0980-76-2696

E-mail: oec-m1@miyako-ma.jp

* コープ国場の裏です。遊びに来て下さい。*